



男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・女性研究者共助支援事業本部・
女性研究者養成システム改革推進本部・キャリア開発支援本部

2015年度（平成27年度）男女共同参画推進活動

本学では2005年度に男女共同参画推進室を設置し、男女共同参画推進活動を組織的に進めてきました。

「女性研究者支援モデル育成（2006-2008年度）」、「女性研究者養成システム改革加速（2010-2014年度）」、「ポストドクター・インターンシップ推進事業（2011-2015年度）」の採択を経て、2011年度以降は、男女共同参画推進本部、女性研究者共助支援事業本部、女性研究者養成システム改革推進本部、キャリア開発支援本部の4本部体制で活動を行っています。2012年度には男女共同参画推進機構に改称し、関係規程等の整備が行われました。また、全ての補助事業終了後の2016年度以降における大学としての継続的活動推進が確認され、2015年11月に本機構は附属教育研究施設等に組み込まれ（学則24条の6）、大学全体として男女共同参画を推進する姿勢がより鮮明になりました。

各本部の取り組みを下表に示します。男女共同参画推進本部によって、学内外における男女共同参画の推進方策に関する総括・調整がなされ、本年度は関西圏の女子大学の連携活動推進に特に注力して活動が行われました。推進本部と3つの事業本部が互いに連携しながら活動を推進しています。その活動実績は、外部評価において高い評価を受け、本学の特色ある取り組みと評されています。本誌では、2015年度の主な活動内容を紹介します。より詳細な内容は、Webページ（<http://gepo.nara-wu.ac.jp/>）に掲載しています。

男女共同参画推進機構の4つの本部と主な取り組み

本部	主な取り組み	基盤形成補助事業
男女共同参画推進本部	①男女共同参画の推進方策・啓蒙活動の企画・立案、実施 ②男女共同参画についての調査及び現状分析 ③男女共同参画についての学内外との連絡調整（関西圏女子大学との連携活動など）	
女性研究者共助支援事業本部	①女性研究者の教育研究活動と私的生活の両立支援 ②学生・教職員の子育て・介護支援 ③思春期から更年期までの女性の健康相談	文部科学省科学技術振興調整費 「女性研究者支援モデル育成事業」 (2006～2008年度)
女性研究者養成システム改革推進本部	①女性研究者養成システム改革加速プログラムに基づく新規養成女性研究者・独自養成女性研究者の人事・研究支援 ②理工農系分野の既在籍女性研究者に対する研究支援	文部科学省科学技術人材育成費補助金 「女性研究者養成システム改革加速事業」 (2010～2014年度)
キャリア開発支援本部	①ポストドクター・キャリア開発事業プログラムに基づくポストドクター・博士後期課程の学生を対象とした長期インターンシップへの派遣などのキャリア開発支援	文部科学省科学技術人材育成費補助金 「ポストドクター・キャリア開発事業」 (2011～2015年度)

本学がシステム改革・意識改革の一環として実践しているアクションプラン、および次世代育成支援対策推進法に基づく本学の行動計画遵守の成果として、大学全体として高い女性比率を維持しています。

2014年度的女性教員採用比率は目標の50%を越え55.6%（5/9名）、昇任人事に於ける女性比率は61.5%（8/13名）です。大学教員、附属学校教員、その他職員、法人全体の女性比率は、それぞれ、35.0%（第Ⅱ期中期目標30%）、47.1%、38.9%、38.1%であり、全体として女性比率は昨年同様に高い比率で維持されていますが男女同等には未だ届きません。また、意思決定過程への女性の登用が進められてはいるものの、役員、教授、副校長、課長の女性比率は30%を大きく下回り、管理職への女性登用がこれからの重要課題です。そのためにも、本年度8月に制定された女性活躍推進法に基づく行動計画をきっかけ（現在作成中）、ダイバーシティな環境整備を推進していきます。また、女性を中心とした環境整備だけでなく、男女共同参画推進の精神に立ち返り、男女を問わない支援活動を展開したいと考えています。

様々な機会を捉えて活動の学内周知をはかり、より多くの構成員のみなさまに、機構の提供するサービスを積極的に利用して頂けるよう、努めて参ります。引き続き、ご協力とご支援をお願いします。

2016年3月

奈良女子大学男女共同参画推進機構長 井上容子

男女共同参画推進のための講演会

日 時：2015年27年10月30日（金） 16:30～18:00
場 所：奈良女子大学総合研究棟文学系N棟 N101講義室
テーマ：女性の生涯発達とアイデンティティ

—現代の「個」と「関係性」をめぐる—

講 師：岡本祐子氏
(広島大学教授、同大学心理臨床教育研究センター長)

主 催：奈良女子大学男女共同参画推進機構
(世話人：男女共同参画推進本部)

共 催：奈良女子大学臨床心理相談センター

参加者：本学教職員・学生 66名、一般15名

【講演概要】

アイデンティティ生涯発達論等に関するこれまでの研究経験を踏まえながら、女性の生涯発達とアイデンティティについて、人生の危機と心の発達、個と関係性から見た次世代の育成についてお話していただいた。

ライフサイクルを通して心はどのように発達・深化していくのか、人生の中で体験される躓きや危機はそれによどのように影響するのか、等の内的「問い」を包含する臨床心理学理論で、初めてライフサイクル全体を視野に入れたものとして、Eriksonの仕事が挙げられる。岡本先生は、そのEriksonのアイデンティティ論を、特に中年期に着目して発展させる研究をなさってきた。

人生の中には何度も危機的状況があり、それをうまく乗り越えるかどうかでその後に成長するか退行するかが決まる発達の分かれ目になる。特に中年期は人生の曲がり角になっており、職場におけるストレスや夫婦関係の危機、介護ストレス、自立しない子どもを抱えるストレス等でアイデンティティが漂流する、難しい時期である。また、自己の有限性を自覚して受け入れる時期であり、人生前半期に積み残してきた葛藤・問題が顕在化してくるので、アイデンティティを組み立てなおして軌道修正していく必要がある。このようなアイデンティティの問い直しと再体制化は、ライフサイクルの中で何度も繰り返されるものでもある。

また、成人期のアイデンティティをとらえる軸として、「個」としてのアイデンティティだけでなく、「関係性」にもとづくアイデンティティの概念も大事になってきた。この2つの位置づけやバランスの取り方は、人それぞれであり、ライフサイクルの中でも変動するものである。

アイデンティティとキャリアについて考える際に、女性特有の問題もある。女性のライフコースの多様性と複雑さに加え、アイデンティティとキャリアに関わる意思決定の際に必ずしも「個」としてのアイデンティティを中心にした生き方を選べない難しさがある。様々な女性の生き方についても、「個」としての自分を中心にして職業や社会的役割を重視するタイプと、自分にとって大切な人との「関係性」を中心に生きるタイプの2つに大きく分けることができる。いずれのタイプでも、中年期は自分の生き方・あり方が問い直されて、アイデンティティの深化および個と関係性の統合を目指していく、大きな節目である。

このような研究から10～20年が経過し、社会は大きく変化してきた。そこで、最後には現代の「個」と「関係性」をめぐるいくつかの話題を提供していただいた。まず、出産・育児のためにキャリアの継続を断念した女性のアイデンティティは拡散しがちだが、ポスト育児期までを視野に入れたキャリア・アイデンティティを形成することが重要である。達成力だけでなく、職場・組織の健全性に役立つ「ケアする力」やバランス感覚は、育児経験によって養われる力と似ていることにも注目すべきである。また、アイデンティティの形成において、一つの問題意識を持ち続けながらじっくりと考えることや、Face to Faceで話し合うことは、不可欠である。特に日々顔を合わせたコミュニケーションは、次世代の育成や専門性の世代継承においても決定的に重要な意味を持つ。

【講演会アンケート結果】

本学教職員と学生49名および一般の方10名から回答が得られた。「講演内容は期待通りだったか」については、「期待以上(21人)」「期待通り(34人)」と肯定的な評価が93.2%を占めた。理解度については「よく理解できた(35人)」「まあ理解できた(22人)」という評価が96.6%、「講演内容は今後の生活に活用できるか」については「大いに活用できる(27人)」「活用できる(26人)」という評価が89.8%を占めた。感想・意見としては「自分のこれからの人生を見直すよきっかけになった。女性として、中年としての生き方、何をすべきかを考えたい。」「アイデンティティについては勉強していたが関係性を大切にしていくこと、人と、自分と、向き合うことの大切さを学んだ。」「今後のライフステージ、サイクルについて考え直すことができた。大きな節目となる中年期について先のことも考えながら、今を大切にしたいと思った。また様々なライフスタイルがあるので、自分だけのアイデンティティをみつけないと思う。」などの感想が寄せられた。



教職員研修会

信頼関係を築くコミュニケーション

～大学院生の不安を軽減し、心の不調を予防するには～

日 時：2015年12月25日（金）16：30～18：30

場 所：生活環境科学系D棟120教室

講 師：宮城まり子氏

（法政大学キャリアデザイン学研究科教授、臨床心理士）

主 催：奈良女子大学男女共同参画推進機構

（キャリア開発支援本部と女性研究者養成システム改革推進本部）、
ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

参加者：本学教職員、博士後期課程の学生、一般（約30名）

【講演概要】



メンタルヘルスの不調は、キャリアの問題と深く関係していることが多い。「キャリア」の語源（ラテン語）は、馬車の轍（車道）であり、人生の軌跡を意味する。人生全般を含む「ライフキャリア(Life Career)」を視野に入れ、社会的地位、勤務先の規模、知名度、給与等の「外的キャリア」だけに注目するのではなく、個人の人生・仕事に対する価値観等の「内的キャリア」にも合った進路を見つけれられるよう支援することは、メンタルヘルス不調の予防に繋がる。仕事の中で自分が活かされ、認められ、成長出来、他者や組織や社会の役に立てることは、キャリアの充実感（働きがい、生きがい）と幸福感をもたらす。これまでの自分の歩みと現在の自分自身、そして今後の仕事や生き方のビジョン

等について丁寧に振り返る機会を大学院生に提供することにより、彼女たちの自己理解は深まり、目標の明確化、意識の強化、行動の変容が生じる。キャリア形成において重要なのは、現在の担当職務（研究・学び）を最大限の努力をして遂行すること、3年後、5年後、10年後のおおよそのキャリアビジョンを持ち、そのための準備や自己啓発を行うこと、そして興味のあることに一生懸命取り組むことである。複雑で多様な現代社会の中でより良く生きるためには、自分の専門性を磨くだけでなく、視野を広げ、複数の分野・領域に関心を持つことが大切である。想定外の出来事は多発するため、状況に応じて自分の成功や幸福の基準（価値観）を見直し、「～ねばならない」「～べきである」から「～に越したことはないが・・・」に考えを柔軟に切り替え、Second BestやThird Bestの選択肢を見出し、長い生涯を展望した上でのライフキャリアの計画を再設定出来るよう、彼女たちを応援していくことをお勧めする。

キャリアカウンセリングでは、相談者の問題解決に向けて、対話を通して支援する。そして、相談者が持っている能力を更に開花させることを目指す。悩んでいる人は、ありのままの自分の気持ちや欲求等を理解してほしいと願っているため、支援者は、「なおそうとするな、わかろうとせよ」の基本姿勢を忘れずに耳だけでなく心も相手に傾けて話をよく聴き、話の3要素（①事実、②気持ち、③欲求・願望・計画）に沿って、聴いた話の内容を整理していくと良い。相談者は、話すことによりストレスを放ち、心の中を言語化して、自分が抱える問題についての気づきを得られる。支援者は、「役に立ちたい」という焦りから、つい相談者の話を遮って助言したり、自分の話をしてしまいがちだが、まずは、温かい視線を向けてゆったりと相槌を打ち、開かれた質問（Open Questions）をして相談者が話したいことを安心して自由に話せる場をつくり、沈黙の時間も大事にしながら共感的な応答をしていくことが、信頼関係の構築に必要な。感情は、物事の捉え方、考え方、意味づけにより規定されるため、相談者が自分の認知の歪み（思い込み）に気付いてそれを修正することは、不安の軽減とメンタルヘルスの改善に繋がる。講演の中で、参加者は、聴いた話の要点をまとめて繰り返し、話し手の反応を確認する練習をした。



参加者からは、「『話を聴く』ことの奥深さと難しさを知った」「傾聴のテクニカルなことから、心構えまで詳しく話していただき、とても参考になった。これをもとに学生と接するようになりたい。これまでは助言をしなければという気持ちが出てしまうことが多かった。一方で、これだけのことを実践するには時間が必要。大学教員の忙しい毎日の中で、その時間をどのように確保出来るかが課題だ」「素晴らしい講演内容。色々なシチュエーションで活かしていきたい」「近年増加しているうつな学生にどう対応すれば良いのか悩む。アドバイスをしようと思わずに、聴いてあげるだけでも随分気持ちが楽になることを知れて良かった。聴き上手になることの大切さもよく分かった」「教職員が学生への対応の仕方等について相談出来る場があれば良いなと思った」「学んだことを早速今日から実践したい」等の感想が寄せられた。

教職員研修会

教職員対象ですが、
（学生、大学院生、大学の教員も含め）
どなたの参加も歓迎します！
申込不要

信頼関係を築くコミュニケーション

大学院生の不安を軽減し、心の不調を予防するには？

平成27年12月25日（金）16:30～18:30
奈良女子大学 D棟120教室（1階）

大学院生が、安心してイキイキと、
思いつく力を発揮出来る関係をつくるために、
教職員が出来ることは何か、一緒に考えましょう！

講師：宮城まり子さん
法政大学キャリアデザイン学部教授
臨床心理士



【主催】 奈良女子大学 男女共同参画推進機構 キャリア開発支援本部
奈良女子大学 男女共同参画推進機構 女性研究者養成システム改革推進本部
奈良女子大学 ファカルティ・ディベロップメント推進委員会
お問い合わせは、キャリア開発支援本部（事務局）へ
TEL/Fax: 0743-20-3172 E-mail: career@nara-wu.ac.jp
URL: http://odp.nara-wu.ac.jp/

第10回 女子中高生のための関西科学塾 (C日程・中学生対象・奈良女子大学会場)

日時：2015年10月18日（日）12:30～17:00

場所：奈良女子大学S棟1階ラウンジ集合

実験：「場合の数を求めよう」「生き物と数学の深い関係」

「植物の水のスーパーハイウェイ・道管ってどんなもの?」

「食のライフサイエンス:味の不思議」

「地球(アース)の贈り物」「空気中の微粒子を測ってみよう」

主催：神戸大学 共催：大阪大学、奈良女子大学男女共同参画推進機構
奈良女子大学理系女性教育開発共同機構、京都大学男女共同参画
推進センター、京都大学大学院理学研究科、大阪府立大学、
日本物理学会

【開催概要】

女子が理系に向いていないという意識は根強い。関西科学塾は、関西の5つの大学（大阪大学・大阪府立大学・京都大学・神戸大学・奈良女子大学）で女子中高生対象の実験講座を開催し、女子生徒が理系を身近に感じ、進路として選択するように促す事業で、科学技術振興機構から支援を受け、平成18年度から活動している。今年度も奈良女子大学では10月18日に中学生対象の6講座が開講され、中学生74名、同伴者42名の計116名が参加した。小林毅・奈良女子大学理学部教授の開会挨拶、松岡由貴准教授によるガイダンスの後、6つの講座（講師：篠田正人理学部教授、高須夫悟理学部教授、坂口修一理学部准教授・奈良久美理学部准教授、井上裕康生活環境学部教授・中田理恵子生活環境学部講師、松岡由貴理学部准教授、久慈誠理学部准教授）に分かれて実験実習が行われ、中学生の多くが真剣に実験に取り組んだ。なお、今年度当番校の神戸大学が5大学全体の事業を統括する立場から主催者になり、奈良女子大学は会場校のひとつとして男女共同参画推進機構と理系女性教育開発共同機構が共催するかたちで、科学塾の実験講座の実施に協力した。

関西圏女子大学連携推進状況

2014年2月に「女性研究者活動支援のための情報交換会」が立ち上がり、関西圏の女子大学で連携を進めていく試みがはじまった。その後「関西圏の女子大学ワーキンググループ」が発足し、参加大学も5大学（神戸松蔭女子学院大学、武庫川女子大学、奈良女子大学、京都女子大学、同志社女子大学）となり、2014年6月には関西圏の女子大学合同公開シンポジウム「女性の力を今こそ」が開催された。2015年度には、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学及び本学の3女子大学で、表のようにワーキンググループ会議を開催し、連携事業について協議を行ってきた。2016年2月6日（土）には、3女子大学で「異文化キックオフ交流会」を開催することとなった。テーマは「食と健康」「環境と生活」で、女性研究者が連携機関の研究者や技術者などと新たな共同研究を立ち上げることや、課題の発掘・計画提案などを支援し、研究環境の整備とダイバーシティ化を推進することを目的としている。また、これらの活動と並行して、2014年度と2015年度には、文部科学省女性研究者研究活動支援事業の一環である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）」に、武庫川女子大学、奈良女子大学、神戸松蔭女子学院大学で連携して応募したが採択には至らなかった。しかし今後も連携を推進し、女性研究者のキャリア支援、共同研究や大学院カリキュラム開発等の取組を進めていこうとしている。

2015年度 関西圏の女子大学ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	場所	主な議題
第9回	4月11日	武庫川女子大学	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業申請について
第10回	4月22日	奈良女子大学	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業申請について
第11回	8月3日	武庫川女子大学	1)ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業申請結果について 2)今後の連携について
第12回	10月23日	武庫川女子大学	今後の連携事業について
第13回	12月8日	武庫川女子大学	キックオフプロジェクトについて
第14回	2月3日(予定)	武庫川女子大学	キックオフプロジェクトについて

国立研究開発法人科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

第10回
女子中高生のための
関西科学塾

講師先 神戸大学 男女共同参画推進室内
理系女性教育推進部
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
E-mail kagakuju2015@org.kobe-u.ac.jp
http://kagakuju.kobe-u.ac.jp

Newsleter Vol.2

2015年10月18日(日曜日) C日程

プログラム

12:30	開場、受付開始
13:00	開会挨拶・講演
13:20	小林毅 理学部教授
13:30-17:00	実験室へ移動
17:00	実験・実習

12:30 開場、受付開始
13:00 開会挨拶・講演
13:20 小林毅 理学部教授
13:30-17:00 実験室へ移動
17:00 実験・実習

C-1 食のライフサイエンス
C-2 地球(アース)の贈り物
C-3 場合の数を求めよう
C-4 植物の水のスーパーハイウェイ
C-5 空気中の微粒子を測ってみよう
C-6 生き物と数学の深い関係

生徒からの感想(抜粋)
・実験は思ったの程があったり、糖やアミノ酸でもいろいろな種類があること等知らなかった。
・自分の知らないことや学校の中だと体験できないことができて楽しかった。
・植物に対する関心が高まりました。

同伴者からの感想(抜粋)
・実験や電子顕微鏡はともにも興味深く
・保護者も楽しませてもらいました。
・子供達がとても楽しみにしています。
ありがとうございました。

中学生対象の実験講座が奈良女子大学で開催されました。

女性研究者共助支援事業本部の活動

2006～2008年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」採択期間に培った女性研究者に対する支援環境整備を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、更なる整備と拡充を図っています。

教育研究支援員制度

出産・育児・介護等に関わる女性研究者の教育研究活動の支援のため、主に博士後期課程修了者を教育研究支援員として採用し、支援者と被支援者双方のキャリア形成、キャリア復帰等のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することを目的として開始した制度である。2009年4月以降、本学独自の経費で実施している。

2015年度本制度利用の状況

利用女性教員数 5月～9月 6名
10月～3月 7名
支援員延べ人数 17名
教員1名に対し支援員配置時間 平均12.1時間(/週)

サポーター養成講座

子育てと学業・研究の両立に奮闘する学生や教員を支える「子育て支援サポーター」を学内外で確保し、その質を高めていくことが最重要課題である。

本年度はサポーターとしての基礎知識を提供するために「基礎講座」を13回開講し、新たに15名がサポーター登録をした。この講座を一回受けることで、サポーター登録を可能としている。またサポーターとしての技能と知識を高めていただくために、9月以降に以下のような題目の「ブラッシュアップ講座」を開講した。

①体験！保育の現場@奈良こども館、②『自分』の誕生、③対話の作法ーおしゃべりからのステップアップー、④多様な子どもが社会で育っていくために…ー“子どもの捉え方”と“みんな”をつなぐワークショップー、⑤子どもと一緒に避難方法をおさらい。

昨年度からサポーター必修の基礎研修を設け、本年度は「子どもの嘔吐とその後の処理の実習」と題して子どもが嘔吐した際の処理と二次感染を防ぐ対応、保護者への連絡のコツ、日頃からできる予防法などを学んでいただいた。基礎研修は毎年必修とし、より多くの方に受講していただけるよう2回開講、また★制度を設け、研修を受けたサポーターは★★(二つ星)を認定することとした。



子育て支援システム

学童保育後等の子どもの送迎・預かり支援を受けたい本学の学生・教職員と子育て支援を志す者(サポーター)を組織化し、学業・職業と出産・育児等の両立支援を目的としたシステムである。複数名の共助サポーターが各利用者の要望に合わせて選出され、利用者は、主にWebシステム「ならっこネット」を通じて共助サポーターに支援を依頼し、実施される。支援依頼は24時間可能、支援時間帯は7:30～22:00である。保険にも加入し、迅速・確実・安心のシステムである。なお、学生、院生、ポストドクターが「ならっこネット」を利用した場合、その利用経費の支援をする制度が整備されている。

2015年12月末現在、ならっこネット登録利用者数は37名(支援される子どもの数56名)、登録サポーター数は68名である。本年度(～12月末)「ならっこネット」を介した支援依頼は295件で、うち253件が実施された。2011年度からはイベント託児システム(シンポジウムや講演会等開催時の託児、附属幼・小での集団託児)を開始し、本年度の依頼件数は41件、12月末時点で28件実施しており、約500名の子ども達を託児した。

また、本年度は、神戸で約1週間に渡る大規模な国際学会の託児依頼があり、利用者延べ14名、子ども延べ19名が利用し、延べ19名のサポーターが対応した。学会会場内の1部屋を託児室として準備・レイアウトし、外国人利用者に対応するため、英語が話せるサポーターの確保や英語表記の貼り紙・説明カードを用意するなどの工夫をして託児した。

母性支援相談室

3名の母性支援相談カウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、学生、教職員からの相談に対応している。思春期から更年期までのこころとからだの健康相談、妊娠・出産・育児・介護に関する相談等の相談内容に応じている。2006年11月の開室以来、累計相談者件数は延べ912件に上り、本年度は51件であった(2015年12月末現在)。

また、本年度は新たに介護相談を開始し、介護に関連する情報提供や、介護を抱える中で生じる様々な悩みに対応することとした。

2015年度その他の活動

- 「ならっこネット通信」(メルマガ)を3回・「ならっこニュース」(メルマガ)を12回配信、冊子「サポーター通信」を1回、「母性支援相談室だより」を2回発行した。
- 女性研究者養成システム改革推進本部と共に、本学女性教員を対象とした女性研究者ネットワークを発足させ、メルマガ配信を20回行った。

このページ掲載の活動についての問い合わせ先:

奈良女子大学 女性研究者共助支援事業本部

Tel/Fax 0742-20-3344

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/>

e-mail shien@cc.nara-wu.ac.jp

女性研究者養成システム改革推進本部の活動

2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」（2011年度より科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として継続実施）に採択され、2014年度には採択期間5年間を終了しましたが、2015年度以降も引き続き、本学の女性人材育成機関としての伝統と実績を活かした取組をさらに充実させ、理工系分野の女性教員数の増加を目指します。

女性研究者養成システム改革推進本部の取り組み

女性研究者養成システム改革推進本部では、以下のシステムを実施し、理工系分野の女性教員数の増加及び女性研究者の育成に取り組んでいます。

▶ 若手女性研究者養成システム

公募方式と推薦方式による選抜を行い、優秀な女性研究者を採用。

▶ 若手研究者サポートシステム

メンターチームによる女性研究者支援とPDCAサイクルによる指導助言体制の改善。

▶ 研究スキルアップシステム

女性研究者に対する種々の支援を充実し、女性院生を養成する指導教員を支援。



2015年度の活動実績

2015年度における理工系分野の女性研究者比率は、25.5%（2016年1月1日現在）であり、計画どおり20%以上を維持している。以下に、2015年度における各システム及びその他の活動実績を示す。

▶ 若手女性研究者養成システム

2013年度採用の新規養成女性研究者（理学系2名）に対し、研究費の支給等により養成支援を継続して実施した。

▶ 若手研究者サポートシステム

2013年度に採用された助教に対し、3名の教員からなるメンターチームを構成し指導助言を行った。各部署の評価委員会、全学組織の評価企画室を経由するPDCAサイクルに従って、2014年度のメンターチームの評価が実施された。この評価により、各助教がその研究活動を着実に進めていること、指導助言が適切に行われていること等が確認され、サポートシステムの改善に活用された。

▶ 研究スキルアップシステム

学内の理工農学系女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

2015年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者6名、工学系研究者3名、農学系研究者7名

▶ その他

<意識啓発活動>

女性研究者養成に係る学内構成員及び学内教職員のスキルアップのため、2015年12月25日に、キャリア開発支援本部及びファカルティ・ディベロップメント推進委員会と共催で、法政大学から講師を招き、「信頼関係を築くコミュニケーション」をテーマとした教職員研修会を開催した。

<女性研究者ネットワーク>

「女性研究者ネットワーク」を通して、主に研究スキルアップに関する公募情報等を配信した。

<女性研究者養成システム改革加速事業の事後評価>

本事業は、2015年9月30日に、科学技術振興機構サイエンスプラザにおいて、文部科学省による事後評価を受けた。事後評価のヒアリングは、約25分間（発表10分、質疑応答15分）行われた。本学の出席者は、井上容子理事・副学長（総括責任者代理）、岩井薫教授（女性研究者養成システム改革推進本部長）及び春本晃江教授（同副本部長）であった。現在、事後評価の結果待ちの状態である。

キャリア開発支援本部の活動

文部科学省の科学技術人材育成費補助事業「ポストドクター・キャリア開発事業」の最終年度に入り、ポストドクター16人が民間企業や団体などで長期インターンシップに取り組みました。研究活動で培った専門性に付加価値をつけ、企業や団体で活躍できる高い職業能力を身につけた人材としてポストドクターを育成しています。

インターンシップに16人を派遣

2015年度のポストドクター長期インターンシップには、右表のとおり当初計画の15人に、本学独自経費による1人を加え、計16名が派遣された。後者は昨年引き続き、本学出身のポストドクで補助金支給要件(40歳未満)に該当しない人への支援であった。派遣先は民間企業等への派遣が半数を占め、その他各種法人、地方自治体関連施設等さまざまであった。1人はJSTの承認を得て海外機関へ派遣された。

インターンシップ先		インターンシップ先	
株式会社	食品流通	社会福祉法人	障がい者支援施設
株式会社	食品製造	宗教法人	宗務庁
株式会社	旅行サービス	公益社団法人	観光協会
株式会社	建築事務所	公益財団法人	文化財監理事務所
株式会社	医薬品製造	非営利法人	商工会議所
株式会社	医薬品製造	非営利法人	美術館(海外)
有限会社	出版	県立施設	図書館
工房	染色工房	区役所	複合施設準備室

【イベント】

2014年度インターンシップ報告会 - 口頭発表とポスター展示、交流会 -

昨年3月20日、JST担当者をお招きし、2014年度インターンシップに派遣された3人の口頭発表と、17人全員の活動内容をポスター展示で紹介した。報告会後は参加者の交流会(写真)を実施し、多くのポストドクがお互いの近況報告に耳を傾けた。連絡先を交換する場面も見られ、交流を深めた。



企業人等との交流会 ワークショップ「まちとはかせ」

9月29日、企業等で働くことを考えるきっかけとして、また、企業等にも博士人材の魅力を知ってもらう機会として、まちづくり関連企業・団体5社と博士人材とでワークショップを実施した。グループワークでは、「各自の専門性を地域の課題解決に活かすとしたら」という設定でアイデアを出し合い、プレゼンテーションを行った。



シンポジウム「キャリアの壁を越えて」 - 奈良女発 みちを拓いた女性博士54人の軌跡 -

2月23日、ポストドクター・キャリア開発事業の終了年度にあたり、シンポジウムを開催した。JSTのプログラムオフィサーによる基調講演、本部長による事業成果と今後の展望についての報告、インターンシップ経験者による体験報告があった。

【セミナー】

インターンシップ派遣の事前学習として キャリアセミナー、ワークスタイルセミナー実施

実践的講義として下記の8回のセミナーを実施した。事業開始以来セミナーは、事業対象であるポストドクや博士後期課程学生以外の学生や一般にもオープンにしてきたことで、常時20~40名程度の受講者が得られ、事業を周知する広報的な役割も果たしているといえる。

講師をインターンシップ受け入れ先から招聘(*印)することで、連携が強化されたケースもあった。セミナーはDVD化され、いつでも視聴できる。

5/28	キャリアセミナー (国際貢献)	ゼロから始めて、世界を変える！ 一歩を踏み出す勇氣
6/12	キャリアセミナー (ビジネススキル)	松下幸之助に学ぶ 「仕事の原則・成功への指針」*
6/24	ワークスタイル セミナー	誰も教えてくれなかった・・・ 自分の「価値」の見つけ方
7/24	ワークスタイル セミナー	偶然をチャンスに変える！ 自分の働き方に出逢うには
10/15	キャリアセミナー (職業能力開発)	「生物から学ぶ」 - バイオメティクス概念と技術 -
10/28	キャリアセミナー (国際貢献)	The Power of Travel and Tourism - 持続可能な観光開発とは - *
11/13	キャリアセミナー (ビジネススキル)	企業の採用の変遷と エントリー企業から内定を得る方策*
12/03	キャリアセミナー (職業能力開発)	社会に溶けこむ人工知能技術

企業からの支援金による「マイ・プロジェクト」

学生達の想像力、潜在力を引き出し、企画力・行動力を培う、新しい形のインターンシップ。今年度は7人(PD2人、博士1人、修士2人、学部2人)が挑戦した。

写真: 成果物の冊子



その他の活動 自己分析セミナー/教職員研修会の主催(トピックス参照)/キャリアインタビュー支援/キャリアデザインゼミの開講/博士後期課程授業への協力/博士のお茶会/その他の広報活動

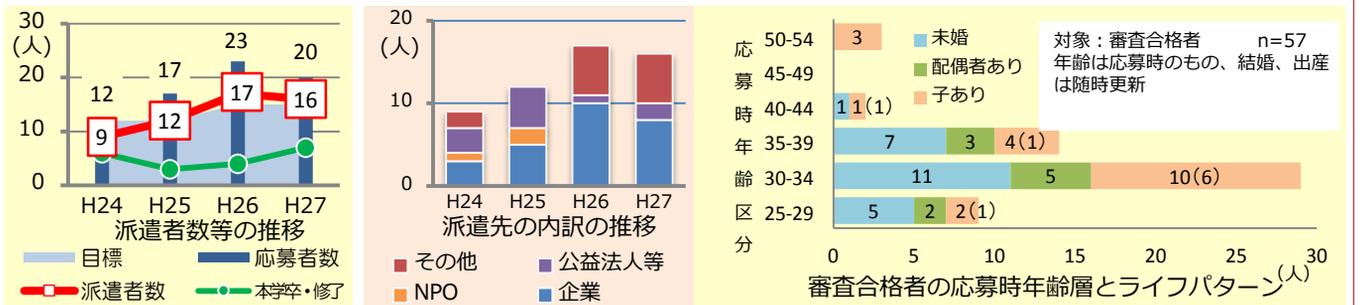
ポストドクター・キャリア開発事業終了にあたっての活動と成果のまとめ

2011年度に採択された文部科学省の補助事業「ポストドクター・キャリア開発事業」は2015年度で終了する。本学では男女共同参画推進機構の中にキャリア開発支援本部を設置し、課題「女性ポストドクター等のキャリアパスの多様化を目指す『キャリアの壁』打開策」に向けて、キャリア・コーディネーター4人の配置、自己分析セミナーなどをはじめ、ひとりひとりを大切にする体制を整え、種々の取り組みを実施してきた。

事業の主眼であるインターンシップ派遣者数の推移は下図(左)のとおりで、通算54名となった。この事業の特徴として、出身大学を問わず女性ポスドクを支援してきたことが挙げられる。2012年度前半は学内者のみを対象としたが、後半からは全国に向けて公募し本学出身者(図中緑丸)以外の支援にも力を入れた。結果として、下図(中)にあるように、民間企業をはじめ多様なインターンシップが実現し、女性ポスドクのキャリアパス多様化に向けて多くの事例が集積され、女性博士人材が幅広い分野で活躍しうることが示された。

また、女性が遭遇するライフイベントに起因する問題(キャリアの壁)への支援が充実していたことが、目標達成に大きく貢献したといえる。審査合格者57人の年齢構成とライフパターンは下図(右)のとおりである。子育て世代のポスドクが自己のキャリア開発に積極的に取り組むために、環境面、精神面の支援が得られることを理由に応募してきた実態がこの図から伺える。これまでに構築してきた子育て支援システムが女性研究者育成のみならず、広く社会に向けて女性の能力を還元し、活躍を促すためにも役立つことが示された。

以上の成果を踏まえて、2016年2月23日に「キャリアの壁を越えて」と題したシンポジウムを開催し、本事業終了後も、ひとりひとりを大切にしたシステムの定着と女性の活躍推進に取り組むことが表明された。



前ページとこのページ掲載の活動についての問い合わせ先： 奈良女子大学 キャリア開発支援本部

Tel/Fax 0742-20-3572

URL <http://cdpd.nara-wu.ac.jp>

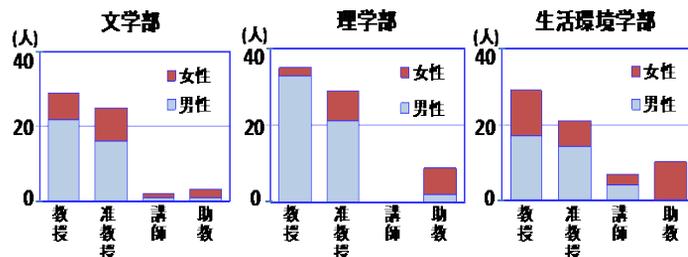
e-mail career-k@cc.nara-wu.ac.jp

男女共同参画推進機構の組織改組と今後の課題

本学の基本理念の第一は「男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学—」であり、2005年に奈良女子大学次世代育成支援行動計画が策定され、男女共同参画活動を組織的に推進してきた。文部科学省の助成金を獲得して各事業の基盤を形成し、事業終了後には独自経費による継続推進を実施している。2015年度をもって全ての助成事業が終了するため、事業内容を見直し、2016年度からは3本部4事業体制で、奈良女子大学女性活躍推進行動計画のもとに、男女共同参画活動を推進していく。本学の特色ある活動を分かり易く発信し、他機関と連携した開かれた活動を実践し、社会的要請を見据えた一歩先んじた活動の展開が求められている。

男女共同参画推進本部とキャリア開発支援本部は、活動の幅を広げ他機関とも積極的に連携して、本部事業を維持する。女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部はダイバーシティ教育研究支援本部として発展的統合を行い、共助支援事業(ex. 育児支援、ワークライフバランス支援相談室)と研究活動支援事業(ex. スタートアップ支援、スキルアップ支援、研究支援員)の2つの事業を推進する。なお、システム改革推進本部の事業であった理系女性若手教員のためのメンターシステムは、その成果が評価され、2015年度より分野・性別を問わず全学的に展開することとなり、研究企画室が担当している。

奈良女子大学教員の男女別人数 (2015年5月1日現在)



編集・発行: 奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先: 奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3204 Fax 0742-20-3205

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/>